2015

ファシリテーション活用支援プログラム

実施報告書

2015 年度実施報告書（2015 年 4 月~2016 年 5 月）

1.社会福祉法人かながわ共同会　法人事務局企画研修部企画研修課
～「ファシリテーションの基本」研修～

2.社会福祉法人岐阜県社会福祉協議会
～ 岐阜県市町村社協職員ファシリテーション研修会～

3.公益社団法人 日本バリュー・エンジニアリング協会　西日本支部東海地区
～VE技術情報交流会「チームリーダーに求められるファシリテーション技術」～

4.岡山大学医学部
～夏の F.D.『医療教育現場で実践できるファシリテーションスキル研修会』～

5.（一社）北九州市青年会議所
～食（文化）で市民力活性化！～

6.中央区立環境情報センター
～中央区総合環境講座・フォローアップ講座（とりまとめワークショップ）～

7.親心を育む会
～親心を育む会役員会～

8.公益財団法人 浜松文化振興財団　クリエート浜松
～ファシリテーター養成講座部企画講座「ファシリテーション講座　入門編」～

9.東京都知的障害者育成会　葛飾・江戸川地区事業所
～「ファシリテーション研修：効果的な話し合いの進め方を知ろう」～

10.公益社団法人　全国助産師教育協議会
～「教育力の Skill up、学生支援のため、学生のチーム力 up のためのファシリテーション力 up」～

11. 福岡県民主医療機関連合会
～事務管理者研修（事務管理者に求められるファシリテーション能力）～

はじめに

2009 年から始まったファシリテーション活用支援プログラムは、2015 年度でその事業を終了し、新たな支援助言事業となるファシリテーションサポートプログラムへと引き継がれることになります。
これまで関わっていただいた皆様については、当プログラムがご自身の学びにつながっていることと思います。そして社会へファシリテーションを届けるという行為を、当プログラムに関わらず、今後とも積極的に担っていただけることを願っています。

最後の年度となる 2015 年度「ファシリテーション活用支援プログラム」では 11 の現場で様々な成果や気づきが生まれました。それぞれの実践結果をぜひご一読ください。

「ファシリテーション活用支援プログラム」の紹介

【事業の経緯】

日本ファシリテーション協会（以下、「ＦＡＪ」）では、2003 年の発足以来、「講師・ファシリテーター紹介事業」を実施していましたが、ファシリテーションが一定程度普及し、研修などのサービスを提供する企業が増えたことにより、当該事業は、その役割と目標はほぼ達成したと判断し、2007 年度をもって終了しました。

一方で、企業によるサービスは増加したものの、非営利組織や地域コミュニティなど、必要性はありながら資金面の制約からそれらのサービスを十分受けられない組織や団体が多く存在している事実がありました。また、ＦＡＪとして、より多くの会員にファシリテーションを実践する機会を広く提供することが課題となっていました。そこで、2008 年度から、「公共性」「非営利性」「公開性」などの要件を満たすワークショップ・研修などの依頼に対し、会員からファシリテーター（講師）・コーデネーター・アシスタントなどを公募し、チームとして対応する「現場紹介事業（ファシリテーション活用支援プログラム）」をスタートしました。

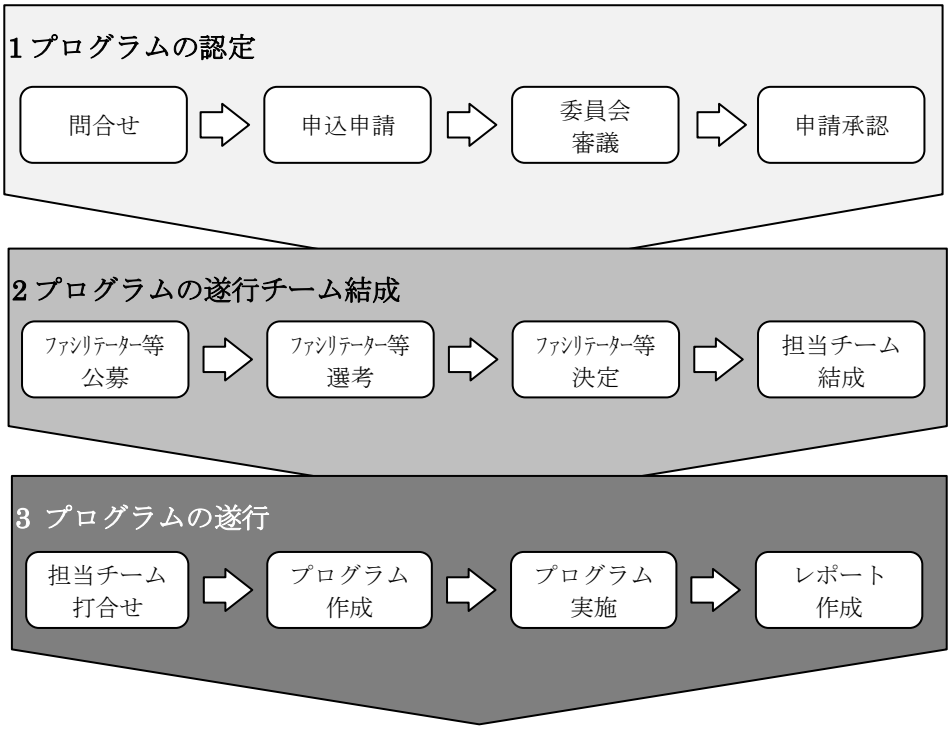
その後、名称による混乱を避け、NPO のミッションとしての「社会に対して発信する事業」という視点を強調するため、2009 年 7 月からは事業の名称を「ファシリテーション活用支援プログラム」（略称：ファシ活）に統一されました。

【事業内容】

依頼者は FAJ の HP より問合せ、ファシリテーション活用支援プログラムの申込申請をおこなう。申請内容について委員会で審査、承認する。

FAJ 会員内でファシリテーター等を公募。応募者からファシリテーターを選考、決定する。

依頼者と担当チームでのプログラム打合せをおこない、プログラムを作成する。プログラム実施後はレポートを作成する。



1. プログラムの認定

協会の内外より、ファシリテーションに関する講演・研修、ワークショップの企画・運営、ファシリテーターの派遣などの依頼があった場合、ファシリテーション活用支援プログラム委員会（以後、ファシ活委員会）においてプログラムに認定するか否かの審議を行います。承認検討は以下の 3 つの観点から行われます。

【協働性】

本プログラムは、【企画→調整→実施→評価】という一連の流れ全てを結成したチームとご依頼者との二人三脚で歩むことになります。単に「サービスを提供する／される」という関係ではなく、いろいろとご協力をいただくことが前提となります。よって、時間的余裕（3 ヵ月程度の準備期間を想定しています）がない事業は不可となることがあります。

【公共性】

当会は非営利活動法人であり、本プログラムは財政的に十分でない団体や公益性の高い事業に対する支援を目的としております。営利目的の事業や、参加費を徴収する事業は不可となります。ただし、公益目的や地域活動等の事業で、徴収する参加費が実費範囲であることが確認できる場合は可となります。

【公開性】

本プログラムは、実践事例の紹介を通じたファシリテーションの普及も目的の一つとしています。ファシリテーションの活用事例として報告書の作成や本会が開催するイベントでの事例報告、本会会員に対して現場でファシリテーションの力を磨く機会、本会会員が現場でのファシリテーションの活用事例を知る機会の提供も目的としています。次の 2 点につきましてご理解、ご協力いただけることを条件とします。

1. ワークショップ・研修などの場にファシリテーター（講師）以外のコーディネーター、アシスタント、見学者などが同席できること。
2. 本会のニュースレター、イベントなどでワークショップ・研修の様子を定例会、WEB などを通じて公開すること

2. プログラムの遂行チーム結成

ファシ活委員会で承認後、全会員にファシリテーター、講師を公募し、コーディネーター、アシスタントを含むチームを結成します。

3. プログラムの遂行

【企画→調整→実施→評価】という一連の流れ全てを結成したチームとご依頼者との二人三脚で歩むことになります。

2016 年度より、上記要件をすべて無くし、すべてのファシリテーションを必要とする団体・個人へファシリテーション支援する事業として、「ファシリテーションサポートプログラム」が始まります。

4. 実施案件報告

■事業の概要

□主催： 社会福祉法人かながわ共同会　法人事務局企画研修部企画研修課
□事業名：「ファシリテーションの基本」研修

□実施期間（企画・準備含む）：平成 27 年 4 月 13 日（3 月 27 日応募）～6 月 19 日

□実施日・場所：平成 27 年 5 月 29 日・秦野精華園、6 月 19 日・厚木精華園

□参加者数：62 名（2 回の合計）

□担当チーム（ＦＡＪ会員）：コーディネーター兼ファシリテーター：竹田和矢（東京支部）／アシスタント：増田みつ枝、津野哲（東京支部）／見学者：北川芳一（中部支部）、三谷新太郎、大月章充、桜井誠（東京支部）、亀山隆子（四国支部）／プログラム担当委員：中島美暁

□ファシ活支援形態（ワークショップ、研修等）：合意形成過程を重視し、極力参加者全員が進行役を体感できるよう、発散～収束を担当していただく構成とした。（条件:50 字以内）

■事業の背景／目的／終了後に目指した姿

①背景：職場内はもちろんのこと、地域の関係機関との連携も重要性が増してきている。限られた時間の中、様々な立場の方たちと一定の方向性を見出していくスキルを向上したい。これまでファシリテーションに関して取り組みを行ったことがほとんどない為、初歩から教えて欲しい。

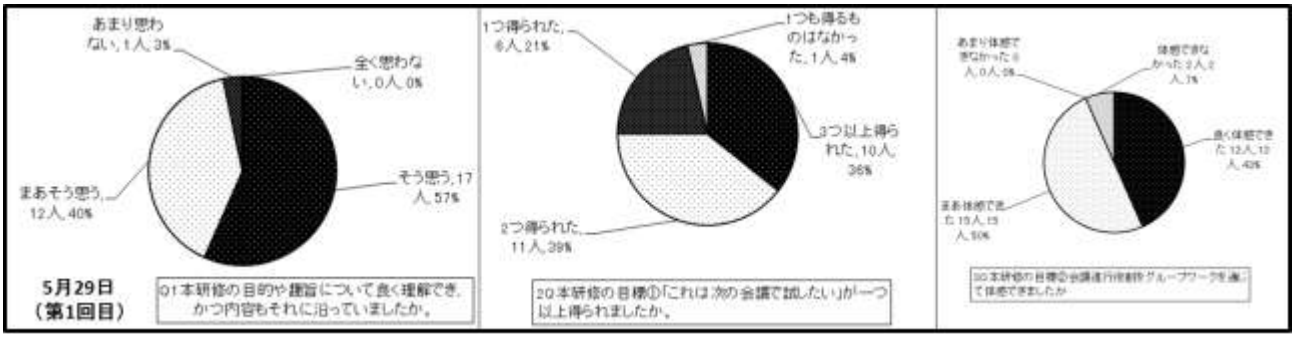
②目的：限られた時間の中で、より効率的かつ有意義な話し合いが行えるよう、参加者の思い意見を引き出し、合意形成を図る基本的な知識を学び、“チーム”の活性化につなげる。

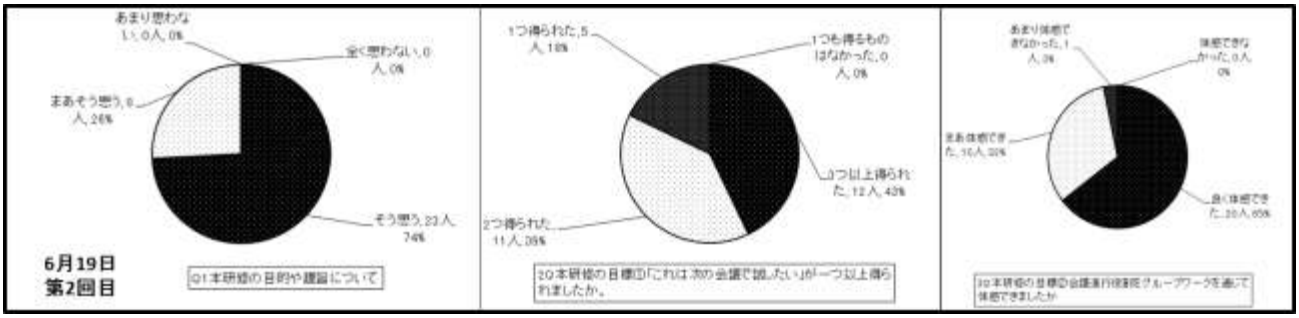
③終了後に目指した姿（具体的に）：目標①「これは次の会議で試したい」が１つ以上得られている。目標②主任（監督者）としての会議進行役割を、グループワークを通じて体感できている。

■終了後の感想（主催者／参加者）（プログラムを活用して良かったこと・成果や改善点・今後の期待等）

☆主催者：社会福祉法人　かながわ共同会法人事務局企画研修部　企画研修課長　中山勝氏：「ワークショップを中心とした実践的なプログラムで、実際にファシリテーションを意識した会議の進行を多くの参加者が体験できた点が良かった。～図表化やポストイット等を活用した実践的な合意形成の方法、他者の意見をどう引き出すかを参加者したメンバーが十分意識できたのではないか。～業務内の会議等で今回体験した合意形成の方法等を活用してほしい。今回の参加者が推進役として、有意義な会議や研修となるべく、所属内だけでなく、外部の研修会等においても活躍してくれることを期待したい」

同　主任　鈴木伽奈氏：「どの職種であっても分かりやすい「社員旅行の計画」をテーマに繰り返し演習を行ったため、“ファシリテーションとは何か”を意識する事が出来、良かった。～参加者それぞれがこれまでの会議について振り返りを行うとともに、“これを試したい”という具体的な意見が出る等、意識の向上に繋がった。～今回の演習で得た事をまずは内部の会議等で実践し、話し合いの充実、ステップアップに繋げて欲しい。」





■具体的内容

□実施までのプロセス（企画・準備段階から実施までの流れ）

| 月 | 3月 | | |

□実施（支援）内容

■担当チーム振り返り（現場におけるファシ活に参加して良かったこと・成果／改善点や気付き等）

（見学：三谷新太郎）：２人以上に同じネガティブコメントがあればそれは講師側の責任と捉える必要がある。第１回目の研修時に、比較要因が分かりにくいとの指摘が複数あったので、改善が必要である。

（同：大月章充）：普段接する機会のない福祉にたずさわる皆様の研修に参加させていただき多くの気付きを得て帰ることができた。とりわけ参加者の皆様が終始熱心にまた楽しく研修に参加されていたことが本当に印象的だった。振り返りでもお話をさせていただいたとおり楽しいテーマを材料に対話をすすめることでより研修への参加意欲と習得度合いが高まったのではないかと思う。このことは早速私たちが主催する研修に取り入れなければならないと思った。

（同：桜井誠）：研修前に思っていたよりも参加者の意見交換が活発だった。東京支部の定例会よりも

元気があった。参加者としてチーム内にいると気が付かないが、見学者として各チームを観ていると、各演習で誰がＦかが分からなかったので、何らかの目印（名札・座る位置への工夫）があると良かった。

（同：亀山隆子）：アンケートの中で「黒子」の件が多く書かれていたので、いい気付きだと思った。初回にして、そのことに気づかれるのは可能性を感じる。とかく福祉の世界は対象者が弱者ゆえに、職員が上から目線になってしまいがちであるが、周囲の人への気配りをしながら、自分を控えることは日々の仕事上でも基本のように思う。いつか香川でも、福祉関係者がファシリテーションの勉強会を積み重ねることができたらいいなあと思った。

（アシスタント：増田みつ枝）虐待など問題があった施設の職員研修を無事終えることができた。継続依頼を受けたので、ＷＳ型研修の効果を理解してもらえたのだと思う。貴重な経験を得ることができた。

（同：津野哲）：2 回目の参加者の方たちは、ファシリテーションに大変興味を持たれていて、その中で創意工夫、自分なりのコーディネイトを考えていたように思われる。ただ、Ｆ役としての実感又は、役目（アンケートにもあるように中立・黒子）がどういうものか若干理解できていない感はあったように思われる。今後、実践的なファシリテーションの手法を経験できる研修が開催されることを期待したい。

（コーディネーター兼ファシリテーター：竹田和矢）：第 1 回目研修はタイムマネジメントのまずさから、演習 F 役を体感する機会そのものを提供することができない方が多く出てしまったが、2 回目研修では、時間配分の圧縮と狭い会場ながら、主催者皆様によるグループ数増加などの努力により、「まったく体感できなかった」が 1 回目 2 名→2 回目 0 名（アンケート調査結果）となったことはよかった。受講者の方々にとって、今後の指南書として活用し、成長いただくための資料提供について、提供いただいた喜多さんに感謝したい。

以上

■事業の概要

□主催： 社会福祉法人岐阜県社会福祉協議会
□事業名： 岐阜県市町村社協職員ファシリテーション研修会

□実施期間（企画・準備含む）：2015 年 4 月 13 日～2015 年 6 月 25 日
□実施日・場所：2015 年 6 月 25 日 10 時～12 時・岐阜県羽島市ふれあい福祉会館
□参加者数：27 **名**
□担当チーム（ＦＡＪ会員）：メインファシリテーター／井上基之
見学者／北川芳一・小森達郎
□ファシ活支援形態（ワークショップ、研修等）：講演

■事業の背景／目的／終了後に目指した姿

①背景：地域福祉の推進を図る社協活動においては、住民参加や行政、関係機関等との連携・協働など社協職員に求められる役割として、会議やミーティングにおけるファシリテーション力があります。会議等の場面では、多様な出席者からの意見等を最大限に引き出し、まとめていく力が必要になってきます。（事業実施要項より抜粋）

②**目的：**本研修会では市町村社協職員を対象に、会議、ミーティングの場面で必要なファシリテーションの基礎知識と技術を習得することを目的として開催します。（事業実施要項より抜粋）

③**終了後に目指した姿（具体的に）：**社会福祉協議会には「基本要綱」というものが定められており、社協職員は「住民活動主体の原則」によって活動している。その具現化のため、社協職員一人ひとりが「ファシリテーター」としてのスキルやマインドを身につけるべく、自己研鑽や実践に取り組むための第一歩となることを目指した。

■終了後の感想（主催者／参加者）（プログラムを活用して良かったこと・成果や改善点・今後の期待等）

希望するテーマに合った講師を紹介頂き、また、講師には、参加者の業務をイメージした内容でご指導頂けたと思う。受講者のアンケートでは、９割以上が「とても参考になった」「参考になった」との回答している。その理由には「漠然としていたファシリテーションやファシリテーターの意味が理解できた」「ファシリテーションの技術が上がれば社協の仕事の強みになる」「とてもわかりやすく引き込まれる内容であった」等があり、評価が高い。

ファシリテーションの知識は、特に社協職員が地域住民や関係機関と事業をすすめる上で大切となる。

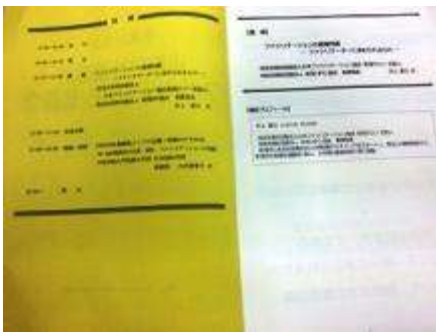
ファシリテーションの意味が分からない状態で参加した者もいたようであるが、今回の研修で学んだことを参加者自身で少しでも理解され、地域に持ち帰り、それぞれの業務に活かして頂くことを期待している。

■具体的内容

□実施までのプロセス（企画・準備段階から実施までの流れ）

□実施（支援）内容

MF による講演（当日配布資料と会場の様子）※作成した資料は FAJ 事務局に PDF 版を送付済



■担当チーム振り返り（現場におけるファシリテーションの活用支援に参加して良かったこと・成果／改善点や気付き等）

≪北川　芳一（見学者・FAJ 中部支部）≫

ファシ活見学は先月の神奈川に次いで 2 回目となりましたが、やはり実践者の話はインパクトがあり、大変勉強になりました。ありがとうございました。

午後の講義・演習は、テーマとのギャップを感じました。午前中で帰れば、「みんなも明日から一歩踏出してくれる」とスッキリして帰れましたが、モヤモヤが残りました。

このモヤモヤを確認できたのは、逆に学びとして良かったと思います。

午後を担当された方（中京学院大学短期大学部大井准教授）は受講生と面識があり、また女性講師なら

では進め方でなんとなく終りましたが、なんらかのフォローの必要を感じました。

≪小森　達郎（見学者・FAJ 中部支部）≫

【午前の部】

・MF が社協職員経験者ということで、講演の内容にファシリテーションの現場経験を盛り込んで、実施されたことから、受講者にとって身近に感じられたと思います。

・ファシリテーションでできることが社協の仕事になじむという説明は、わかりやすかったと思います。

・ファシリテーション 4 つのスキルについて説明したものの、実践しないままだったため、理解が深まっていないと感じました。

【全体を見学して】

FAJ に対し、研修会の主催側からの要望は午前の「講演」のみであったものの、午前と午後のプログラムデザインがリンクしていないと、「ファシリテーション」に対する理解が不十分で終わってしまうということがわかりました。そうしたことから、プログラム全体を把握して、内容を組み立てていくことは、大事であることを主催者へ伝えることも必要だと感じました。

≪井上　基之（メインファシリテーター）≫

社会福祉協議会（以下「社協」）からの依頼によるファシリテーション活用プログラムへの参画は、葛飾区社協に続き 2 案件目となりました。

葛飾区社協の案件では「福祉施設とボランティアを繋ぐ場づくり」というご依頼でした。

本案件は社協職員を対象とした研修であり、こうした取り組みがうまく進んでいけば、葛飾区の案件のような場合にも、「社協職員自身による場づくり」が可能となっていくのではないかと期待しているところです。

ただ、ファシリテーション活用プログラムとしては珍しく、「ワークショップ」や「研修」ではなく「講演」のご依頼であったことには、少なからず難しさを感じました。

午後は FAJ 会員ではない大学教員によるワークショップが予定されていたため、内容の重複を避けたいという主催者側の思惑があったようなのですが、午前中の講義内容と整合性／連続性が欠如してしまった印象があります。

事前に連絡は取り合っていたものの、午後のワークショップに関する情報が不充分であり、強く情報提供を要求しなかったことや、事業全体の設計に関与しきれなかったことを反省しております。

また、今となってみれば、直前でも午後のワークショップの内容を差し替えていただくなど、対応方法はあったのではないかと思います。

研修全体としての不満足感は残ったかもしれませんが、2015 ファシリテーションシンポジウムにおいて「地域団体等を巻き込んだファシリテーションの普及試行と会員が実践体験を行う場の構築」（東京支部／荒谷・向山との共同研究）というテーマで研究発表したとおり、社協職員へのファシリテーション機能の移植は有用だと考えますので、本案件が少しでも社協へのファシリテーションの普及につながったことを願うばかりです。

≪主催者によるアンケート集計≫

平成27年度市町村社協職員ファシリテーション研修会　参加者アンケート集計結果

開催日：平成27年6月25日

参加者	27人

回答者数	27人	回答率	100.00%

各項目の割合は回答者27名に対する%

1　講義「ファシリテーションの基礎知識ーファシリテーターに求められるもの」について
今後ファシリテーターとして活動する際の、参考になりましたか。

施設の種類	回答数	割合	
①　とても参考になった	16	59.3%	96.3%
②　参考になった	10	37.0%	
③　どちらとも言えない	0	0.0%	
④　あまり参考にならなかった	0	0.0%	
⑤　参考にならなかった	0	0.0%	
回答なし	1	3.7%	
計	27	100.0%	

・除外するのではなく、認め、黒子に徹することを学んだか難しい。
・会議ではないが、市社協主催の研修でグループワークをする時のヒントをたくさん頂いた。
・とても大切な役割だと思った。
・通りいっぺんのものでなく集中できました。ポイントが理解できたと思います。
・体験・努力が必要とわかった。
・社協とファシリテーションとは関係が深いことをあらためて確認した。学習した４つのスキルを現場で是非いかしたい。（スキル・知識の積み重ねや情報を得ていくことを大切にしたい）
・地域福祉課で地域活動をすすめる業務の中でいつも市社協の役割を迷っていましたが市社協はファシリテーターになる！という方針が確認できた。
・写真などもはいった資料もとてもわかりやすかった。
・基本的な考え方、知識が理解できた。社協職員には必要なスキル。
・良い部分をみた時に、ファシリテーターが機能すると「納得して合意」のうえで気持ちよく動いてもらえるビジョンがみえてよかった。
・参加者の素直な思いを促すことで新たな気づきが見られる事。参加者自身が気づくことの大切さ。
・とてもわかりやすく引き込まれる内容だった。会議の内容、人の集まり（年齢層など）具合により進め方をかえたりしたい。会議だけでなくどんな場合でも人の気持ちを考えた言動に心がけたい。
・初めてだったのでいろいろ知ることができた。
・社協職員として話を聞けて良かった。
・話がわかりやすく〇〇にアイスブレイクやコミュニケーションツールがありとてもよかったです。
・ファシリテーションそのものの意味がよく理解できていない状態で参加させて頂きましたが講義を聴いてよく理解できました。
・ファシリテーションの基礎を学ぶことができてよかった。ファシリテーションの技術が上がれば社協の仕事をしていく上で強みになる。
・ファシリテーションの意味は理解できた。
・初めて聞く言葉だった。
・（とても参考になった）だけど、まだ言葉がのみこめない。
・ファシリテーションと司会者の違いがよくわかった。こちらが話すぎるのではなく対話で進める

ことが大切だとわかった。黒子であることの大切さもわかった。
・ファシリテーション／ファシリテーターという言葉について漠然としていましたが講義を聞いてできるだけ多くの人に関心を持っていただき自由な発想を伺っていけるようファシリテーターとして黒子として活動していきたいと思った。

高齢・障がい・児童・生活困窮…

線を引いたり、排除するのではなく、
多様性を認め合うこと

仲良くはなれなくても、仲間外れにはしない
「消極的賛成」の存在を容認する地域づくり

（以上）

■事業の概要

□主催：公益社団法人　日本バリュー・エンジニアリング協会　西日本支部東海地区
□事業名：VE技術情報交流会「チームリーダーに求められるファシリテーション技術」

□実施期間(企画・準備含む)：平成 27 年 4 月 5 日(3 月 1 日応募)～7 月 17 日
□**実施日・場所：**平成 27 年7月17日(金)・イオンコンパス名古屋駅前会議室
□**参加者数：**24名（受講者19名、ﾌｧｼﾘﾃｰﾀｰ1名、見学者3名、事務局1名）
□プログラムを担当したＦＡＪ会員
ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ：豊嶋新一(関西支部)/ﾌｧｼﾘﾃｰﾀｰ：北川芳一(中部支部)
見学者：一瀬弘樹・鈴木正史・船間廣治(全員中部支部)
□ファシ活支援形態(○ワークショップ、●研修、○その他)：
　支援型(ファシリテーション)リーダーシップの必要性を理解し、実践する上での意識と知識及び技術を体験学習することにしました。

□ファシ活を活用しようと思ったきっかけや理由＜主催・依頼者＞

限られた時間の中で、①ファシリテーションとは ②VE チームリーダーに求められるファシリテーションスキル　③明日から使えるファシリテーション技術 といった内容を指導してくださる方をご紹介いただけると助かります。

■事業の背景/目的/終了後に目指した姿
①背景：VEとは、製品やサービスの機能(役割・働き)とコストに着目し、新たな価値を創造する改善手法であり、近年、チーム活動を進める上で、ファシリテートできるチームリーダーの必要性が求められており、今回はまず、ファシリテーションの知識とスキルを身につける為の入門編として位置づけました。
②目的：限られた時間の中で、VE技術者への情報提供とファシリテーションのスキルアップを支援する
③終了後に目指した姿：①「ファシリテーションとは、」を語ることができ ②チームリーダーに求められるファシリテーションスキルの概要を知り ③明日から使えるファシリテーション技術をいくつか修得できている。

■終了後の感想(主催者/参加者)(プログラムを活用して良かったこと・成果や改善点・今後の期待)

☆主催者：日本ＶＥ協会　事務局主幹　渋谷徹也氏：
私どもが普及展開を行っているＶＥ（Value Engineering：価値工学）の実践場面では、チーム活動を円滑かつ効率的にファシリテートできるチームリーダーの存在が不可欠となっています。そのため、ＶＥに携わる方々にファシリテーションの「イロハ」を学んでもらい、ＶＥ検討会をはじめとする社内の会議体においてファシリテーション技術が発揮できるよう、ＦＡＪのファシリテーション活用支援プログラムを活用させていただきました。　北川講師の熱心な指導により、グループ演

習も大いに盛り上がりました。お陰さまで、ファシリテーションの必要性はもちろん、社内での活用場面についてもイメージしてもらえたと思います。いろいろ有難うございました。これからもよろしくお願いします。

『バリュー・エンジニアにはファシリテーションを！』
『ファシリテータにはバリュー・エンジニアリングを！』
☆参加者:アンケート回答者10名より
Ⅰ.参加された動機または目的を教えてください（複数回答可）
・テーマに対する情報やノウハウを得るため----7 票(70%)
・自己研鑽・スキルアップのため----------5 票(50%)
・業務やVE実践活動に活用するため---------3 票(30%)
・上司の紹介または業務命令で----------3 票(30%)
・テーマに対する社内ニーズがあるため--------2 票(20%)
Ⅱ.今回の内容は、あなたにとって期待通りのものでしたか？
・期待通り---4票、・だいたい期待通り---4 票、・普通---2 票
Ⅲ.担当講師のプレゼンテーションや演習指導はいかがでしたか？
・満足---5 票、・非常に満足---3 票、・普通---2 票

Ⅳ.本研修に関する意見や感想、提案、要望があれば自由に記入してください
・時間が短かったが有意義でした、ファシリテーターとして深堀する技術が重要であると感じましたので、これから実践していきたいと思います。
・時間が少し短い気がしました、もう少しゆっくり演習ができると良かったと思います。
・初めて参加させていただきました、今後も機会があれば参加させていただきたいと思います。
・非常に得るものが多い講習会でした、自身の業務に活かしていこうと思いました。
・今後は、深堀りした(集まった)意見を整理・まとめる技術を学びたいと感じました。
＊研修終了後に名刺交換をした人は８名でした、内1名から早速FAJに入会したとのメール連絡がありました。

■具体的内容
□実施までのプロセス（企画・準備段階から実施までの流れ）
3 月 1 日・ファシ活の募集が全国MLにて発信された
4 月 5 日・ファシリテーター応募(3 月 18 日)し、MFに北川が決定した
～　・3時間のプログラム案の作成と、福祉系で実施している3時間研修教材をカスタマイズした
4 月 21 日・主催者渋谷氏と名古屋市内で面談し、VEに関する知識習得と今回のカリキュラム案とテキスト案の確認をしていただき了承を得て、今後の役割とスケジュールを決めた
6 月 4 日・渋谷氏より、東海地区VE協会会員約 4000 名に予告のメール配信がされた
6 月 22 日・見学者3名の募集を全国MLに発信し、当日に5名から申込があり先着順にて3名が決定した
・渋谷氏より、東海地区VE協会会員約 5000 名に正式な募集のメール配信がされた
～　・教材のフレームワーク事例集の一部をVEで使用するものに変更した
7 月 8 日　・堀公俊氏に依頼していた著作権使用の許諾メールが届いた
～　・受講者用教材及び資料の印刷手配の依頼をした
7 月 17 日・研修実施（20 名申込でしたが 1 名キャンセル）

7 月 21 日・日本VE協会様のHPにて報告された
http://www.sjve.org/topics/entry/898/

□実施(支援)内容

13:30　ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ（主催者あいさつ、ﾌｧｼﾘﾃｰﾀ・見学者ｰ紹介）
13:40　「本日の目的・目標・スケジュールの確認」
ｱｲｽﾌﾞﾚｰｸ「チーム内自己紹介」---一人 90 秒(ﾀｲﾑ計測)
アンケート「ファシリテーションの認知及び実践度」
講義『ファシリテーションとは』
講義『話合いの基本的な流れ』
14:30　演習【手探りファシリテーション】
講義『ファシリテーション４つの技術』
演習【ペアワーク：質問で掘り下げよう】
演習【合意形成ファシリテーション】
16:30　クロージング
17:00　主催者とＦＡＪメンバー4 人でのふりかえり会と慰労会

■担当チームふりかえり(現場におけるファシ活に参加して良かったこと・成果/改善点や気付き等)
＜プログラムを担当した及び見学したＦＡＪ会員からのメッセージ＞

■北川芳一

・今回は、限られた時間の中で期待されたプログラムを提供できるかが問われており、私にとって馴染みの薄いＶＥ分野でしたので、応募に躊躇しました。でも依頼内容は「ファシリテーションの知識とスキルを身に付けるための入門編」との位置づけであり、今まで某企業で技術者対象に実施している研修が活用できると思い応募しました。

主催者の渋谷氏に面会し、ＶＥにとってチーム力の向上にファシリテーションが必要であることを確認し、従来型の先導型リーダーに加え支援型(ファシリテーション)型リーダーの側面を学習する観点でプログラムを作成しました。技術部門対象ですので論理的思考力は講義のみとして、ファシリテーターとしてのマインドとコミュニケーション力について演習を通して学習するものにしました。主な内容は、『チームリーダーとして日頃からメンバーと良い環境を構築するか・会議主宰時は事前準備を周到にする・チームとしての考える力を育むために質問を多用する、そして全員がファシリテーターの集団を目指す』、今回はそのキッカケとしました。

・会場は広く明るく、各チームにホワイトボードが設置されており快適な環境でした。

参加者は、１３社１９名で大手製造業･建設関連・社会保険労務士などでした。

認知度調査では、「ファシリテーションという言葉を初めて聞いた（７人）･言葉は知っていたが詳細は知らない（６人）・概要知っているが実践していない（４人）・十分ではないが実践しているは（２人)」でした。

・演習は、初対面の方で行いました、簡単なアイスブレイクでしたが早い時期にチームらしくなり遠慮することなく積極的なワークを実施することができました。

・定員３０名に対し応募者２０名であり、まだまだファシリテーションへの関心度が低いと感じました。.
嬉しいことは、社労士の方が即ＦＡＪ会員になったことです。

＜見学者コメント＞

■一瀬弘樹:

・導入段階で参加者に対して「どれくらいファシリテーションのことを知ってますか？」といった問い掛けがあり、参加者との対話の中から、メンバー間の意識合わせと、研修内容の微調整をされていた点は非常に参考になりました。

・3 時間と短い研修時間の中で、導入から活用までをしっかり展開し、最後のグループワークでは、かなり白熱した議論ができていたことが印象的でした。 デザイン(事前準備)の重要性を再認識できました。

・改善点ですが、若干早口で後ろの席の方は、聞き取りづらい場面があったかと思います。
ご自身でも反省されていましたが、HOWTO のコメントを絞って、その分もう少しゆっくり、はっきりと話されると、参加者の理解がより一層深まるのではないかと感じました。

■鈴木正史:

・「３時間でファシリテーションを教える？」かなり無茶なことを、というのが始まるまでの感想。テキストを見ると最初に目的として、基本的な考え方、技術を学び、明日から使えるものを体感する、とある。無謀だ。だがどうだろう。「演習：手探りファシリテーション」と題し基礎的な知識を与えた段階でやっていただき、失敗していただく。事前に時間配分を計画させてはいたが「会議の段取り」が重要なことを実感する。すると俄然、みなさんマインドを持ち、そしてそのマインドからスキルを得ようと前向きに。ここからはスピードアップ。みなさんどんどんスポンジのように新しい知識を吸っていった。最後、２回目の模擬会議の盛り上がること。もちろんファシリテーションマインドを持ったメンバーで会議をしているのもあるが活性化した会議というのも体感できた。

・ファシリテーションがいかに必要で、実践すれば会議が活性化することも体験し、「入門」として、もっとやってみたい、と思うものになったのでは、と感動しました。

■船間廣治:初めてファシ活に参加、見学させて頂きました。

・ファシリテーターとしてのベテラン喜多さんの軽快な口調と進め方（初めての参加者には早口だとのアンケートも）に、魅了される 3 時間でした。
今までの経験も盛りだくさん、理論と実践、演習と、分かり安く、中身の濃い研修でした。特に、グループワーク、合意形成のあり方で、ランキングづけが印象的でした。テーマは、「世界のビール消費国ランキングを合意する」で、ビール好きの喜多さんの思いも入り楽しいワークでした。学びの多い時間を過ごすことができました。参加者の中に私と同業の社会保険労務士さんが見え、研修の途中名刺交換と少しお話をする機会がありました。
是非FAJで引き続き勉強することをお勧めしたら、素早い決断と行動で、入会されたとの連絡を受け、広報活動に協力できたこともうれしく思いました。

（以上）

■事業の概要

□主催： 岡山大学
□事業名：岡山大学医学部　夏の F.D.『医療教育現場で実践できるファシリテーションスキル研修会』

□実施期間（企画・準備含む）：2015 年 6 月 19 日～7 月 31 日
□実施日・場所：7 月 31 日・岡山大学医療教育統合開発センター
□参加者数：40 名
□担当チーム（ＦＡＪ会員）：有吉聖治（ファシリテーター）、梅谷秀治（オブザーブ）
□ファシ活支援形態（ワークショップ、研修等）：
　岡大医学部の教員（新人・ベテラン混合）向けに、教育的ファシリテーションの進め方の講義とワークショップの展開。後半は同大のタスクフォース（教員スタッフ）による、演習。

■事業の背景／目的／終了後に目指した姿

①背景：
毎年夏のこの時期に行われている、岡大医学部の教員向けの F.D.で、今年のテーマとしてファシリテーションが選ばれ、医療教育現場ではどのようなファシリテーションが適応できるのか、について研修・ワークショップを実践する。

②目的：
医療教育現場でファシリテーションを実践し、より効果的な医療教育の実践つなげる。

③終了後に目指した姿（具体的に）：
それぞれの教員が、自分の専門分野で学生や職員とファシリテーションを実践した教育ができるようになる。

■終了後の感想（主催者／参加者）（プログラムを活用して良かったこと・成果や改善点・今後の期待等）（先方のコメントより）
・午前の内容は非常に解り易く盛り上がったが、午後のディスカッションに結びつかなかったのではないか。
・タスクフォースがあまり機能しなかった。
・午後のディスカッションはうまくいかなかった事例より、成功事例のほうが良いのではないか。

■具体的内容

□実施までのプロセス（企画・準備段階から実施までの流れ）
6 月 19 日に先方の万代先生と打ち合わせし、今回のねらいと進め方を確認。基本的に当方で全体を仕切るのではなく、あくまでも「ファシリテーションとは？」との講義部分をメインで担当し、それ以外の進行はタスクフォースに委ねる形式を先方が希望された。よって、タスクフォースメンバーを対象にした研修会を6/30と7/10の 2 回に分けて 2 時間ずつ行うこととした。

□実施（支援）内容

上記 2 回の研修会では、有吉が担当する午前中の流れを順を追って解説し、中で行うワークの説明と午後のファシリテーション実践のテーマをどうするか、を中心に話し合った。しかし、1 回目の参加が万代先生 1 名となってしまったため、実質は 2 回目のみ。また、万代先生のイメージとタスクフォースの教師陣のイメージがかみ合わず、最後まで話し合いのテーマや進行の仕方でもめた。

7/31 の本番当日の朝の打ち合わせ時にも話がかみ合わない点があり、特に後半の進行はぶっつけ本番状態となった。結果から言えば、有吉担当の午前中はペアワーク主体に展開し、まずまず盛り上がった。しかし、後半の現実のテーマを設定した 2 回の話し合いはまとまりを欠くものとなり、最後の「今後へのファシリテーションの活かし方」は消化不良気味の発表となった感は否めない。

■担当チーム振り返り（現場におけるファシリテーションの活用支援に参加して良かったこと・成果／改善点や気付き等）

（先方のコメントより）

・受講生のアンケートは集計中ですが、８割強が全体的にポジティブなご意見、残りがネガティブなご意見でした。

・梅谷さんからこのコースの内容はチャレンジングだとご意見を頂いたように、知識を共有し、そのトレーニンングを行う段階の講習会ではなく、現場で実践できるイメージを持つために今の現場でどこが変えられるかを目指したのですが、あまり有効でなかったような意見も頂いております。

（以上）

■事業の概要

□主催：　（一社）北九州市青年会議所
□事業名：食（文化）で市民力活性化！

□実施期間（企画・準備含む）：平成２７年７月１１日～平成２７年８月２３日
□実施日・場所：平成２７年８月２３日（日）14:00～16:40　北九州市立商工貿易会館６階会議室
□参加者数：参加者　２２人　事務局　４人　オブザーバー６人（ＦＡＪ３人）
□担当チーム（ＦＡＪ会員）：
　メイン講師　古賀弘徳
　オブザーバー　田中慶子、梅谷秀治、松木治子
□ファシ活支援形態（ワークショップ、研修等）：
　ワールドカフェを活用したワークショップ

■事業の背景／目的／終了後に目指した姿

①背景：
　北九州市青年会議所（以下北九州ＪＣ）では本年度、食をテーマとした市の活性化事業を行っている。今回、食を活用した市の活性化に対する提言を北九州市へ行う予定にしているが、北九州ＪＣの委員会メンバーだけでは意見が偏ってしまう。
　そのため、幅広い参加を募り、多くの意見を取り入れて市への提言の土台をつくる。

②目的：
　市への提言となる土台の意見を出す
　参加者には食を通じた市の活性化に対して、新しい考え方、新しい気づきを持って帰ってもらう

③終了後に目指した姿（具体的に）：
　グループごとに食と名産、名所などをかけあわせた市の活性化プロジェクトの案を出してもらう

■終了後の感想（主催者／参加者）（プログラムを活用して良かったこと・成果や改善点・今後の期待等）

市民力活性化委員会　副委員長　藤本　龍一様

２０１５年８月２３日（日曜）北九州市立商工貿易会館 CP６０３にて食をテーマにしたまちづくり事業のワークショップが開催されました。様々な分野からの意見が出るように食に携わる以外の参加者（北九州市職員、大学関係者、ものづくり関連など）を加えるなど工夫を凝らしました。一番はプロのファシリテーターを招いて会の運営を任せたことです。ファシリテーターを加えることで分野外のテーマにおいても緊張することなく、様々な意見を出すことができ、また会自体もスムーズに進めることが出来ました。

進行は地元の食・食文化をどのくらい知っているのか、意外と身近すぎて知り得ていないものなどを列挙していき、その中から取り上げたいものを選択（課題）、グループごとに北九州の未来を想像（ありたい姿）し、それを実現するためにはどのような方法（行動）があるのかを考え、発表していただきました。そのまま事業として実施したいと思わせる発表もありました。また参加いただいた JC メンバーにも食をより理解していただくことが出来たと確信しています。

本事業は多くの皆様のご参加、ご協力のおかげで成功し、無事に終えることが出来ました。

本当にありがとうございました。

■具体的内容

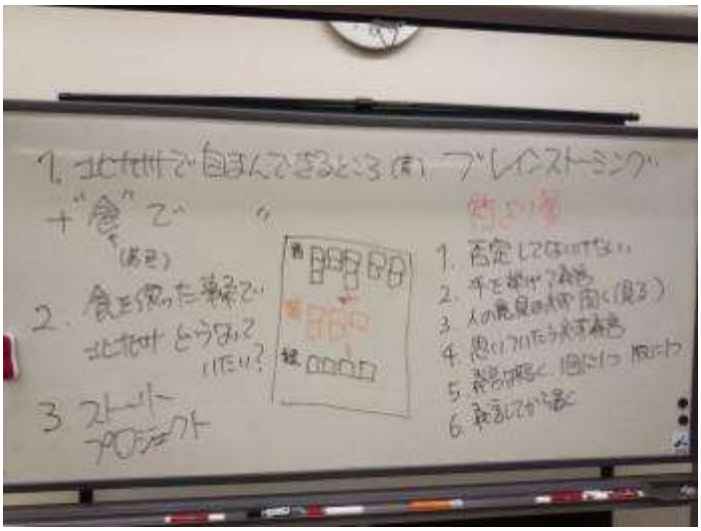
□実施までのプロセス（企画・準備段階から実施までの流れ）

１．主催者と打ち合わせ（ファシ活委員　梅谷さん同席）
　　主催側のねらい、要望などをヒアリング
２．ワークショップ企画書の作成
３．メールにて企画内容の承認、当日の参加者や準備品等の確認
４．オブザーバーの募集
５．ワークショップ開催

□実施（支援）内容

１．アイスブレイク
　カタルタを使った自己紹介でチェックイン
２．流れ、ワールドカフェの説明とブレインストーミングの練習
「北九州のいいところ」をテーマにブレインストーミングを３分間実施
３．「北九州の自慢できるところ」をテーマにワールドカフェ形式でディスカッション（各１０分）
　１回目　分野に関係なく意見を出す
　２回目　「食」を意識して意見を出す
　３回目　グループ分けを意識しながら意見を出す
４．「色を使った事業で北九州がどうなっていたいか、未来像を出す」をテーマにワールドカフェ形式でディスカッション（各１０分）
　１回目　自由に意見を出す
　２回目　グループ分けを意識しながら意見を出す

５.最初のグループに戻り、３と４で出した意見を掛けあわせた活性化プロジェクトを見当（３０分）



６．各グループで出された活性化プロジェクトの発表

７．カタルタを使ったチェックアウト（事務局、オブザーバーも含む）

□当日の参加傾向（オブザーバー感想）
〇参加者は、当初は一般の招待を多めに考えていたようですが、欠席が多くなったという結果です。そのため、北九州ＪＣのメンバーが大半を占め、その他は市の職員２名、大学関係者３名という構成になりました。
〇北九州ＪＣメンバーについては、職種は様々で直接食とは関係のない方々も参加されました。
そのおかげで、幅広い見地からの意見が交わされることとなりました。
〇年齢層はＪＣメンバーが大半だったこともあり、３０～４０代がほとんどです

■担当チーム振り返り
（現場におけるファシリテーションの活用支援に参加して良かったこと・成果／改善点や気付き等）
＜田中さん＞
最初は初めて会う方が多かったのか、島形式のテーブルに座っていても名刺交換後は話題がなく、緊張した場の雰囲気でしたが、自己紹介に『カタルカカード』を使ったことで場の空気が和みスタートしやすい雰囲気作りができていました。
その後、3 つの質問で意見出し、発散し、4 つ目の質問で終息に入り、最後は発表まで。短時間でここまでまとめる古賀さんの腕に感心しました。
通常のワールドカフェとは違い、付箋紙を利用することで、時間を短縮でき、まとめやすくするなど古賀さんの工夫が随所にみられました。
発散するための３つの質問は「北九州って？」「北九州で自慢できるものは？」「北九州の食で自慢できるものは？」でした。ポジティブな質問をすることで意見が出やすく、場の雰囲気も質問ごとに盛り上がり、かなり多くの意見が出ていました。ここにも古賀さんの工夫を感じます。
主催者への今後の提案として 3 時間×3 回シリーズでのご依頼があるとかなり深まり、本当によい提案ができるのではないかと思いました。
今回は 2 時間 30 分の 1 回という短い時間でのご依頼の中で、古賀さんのファシリテーションの技や工夫を見せていただき大変参考になりました。
1 点気になったのは、最初にざっくりとカリキュラムの説明をされると参加者はどんな流れで進むのかがイメージできて良かったのではないかと思いました。
＜松木　さん＞
・カタルカを使った自己紹介で、場が一気に和んだのを感じました。
・またワーク中に、古賀さんが大声で笑う、それも場を活性化するのに一役買っていたように感じました。
・ワールドカフェでのブレストは、初めてでしたが、短い時間で量は割とたくさん出て、「他花受粉」による効果も活かされていると思いました。
・24 名の参加者対して 6R は多すぎるかな（どう、変更できるのかはわかりませんが）
・2h（結果的には 2.5h）という短い時間の中に、いろいろな工夫がされていたと思います。
　-本題に入るまでに 30 分以上の時間を使い場を温め、意見が出る工夫をしていた
　-ブレスト練習のお題を、テーマに関連付ける　など
・これが、この場限りのものに終わらず、次につながることを願ってます。
＜梅谷　さん＞
いろんな意味で北九州青年会議所（ＪＣ）の人達にはいい経験になったなと感じました。
なにより参加者に小森理事長、林田副理事長はじめＪＣ幹部が加わっていたのは良かったし、これは担当だった肱岡さんに感謝すべきと思いました。
今回のワークショップにはわたしは「まちづくりとＪＣとファシリテーション」の視点でオブザーブさせていただきましたが、あらためてその可能性を確信しました。
特に与えられた短い時間のなかで、ワールドカフェの手法を用いながら発想とその共有にとどまらず、テーマについて考え深めていく進め方は大きな学びでした。
ＪＣ内での振り返りでもいろんな場の進め方を見直してみようとの声も出ているようです。アンケート結果が楽しみですね。

■事業の概要

□主催：中央区立環境情報センター
□事業名：中央区総合環境講座・フォローアップ講座（とりまとめワークショップ）

□実施期間（企画・準備含む）：2015 年 5 月 8 日～2015 年 8 月 26 日
□実施日・場所：2015 年８月 26 日（土）18:30～20:30
中央区総合環境センター　会議室
□参加者数：　７名
□担当チーム（ＦＡＪ会員）：
メインファシリテーター：　向山　聡
アシスタント　：冨永博之、馬場貴子、宮﨑典子、新矢理恵
コーディネーター：梅谷秀治
□ファシ活支援形態（ワークショップ、研修等）：
ワークショップ　受講した講座を振り返って今後につなげることを目的として企画。

■事業の背景／目的／終了後に目指した姿

①背景:　中央区環境情報センターは、地域が一体となって環境活動を実践することを目指している組織。仲間ができ、仲間が増え、環境活動の環を広げていくことなどを狙い、各種の情報発信や講座の開催などを進めている。

②目的:　地環境総合講座受講体験を肯定的なものと捉え、活発な意見を出すことができること。

③終了後に目指した姿（具体的に）:　良い体験であったと、自己肯定感を高めるような発言・発信ができる。

■終了後の感想（依頼者）（プログラムを活用して良かったこと・成果や改善点・今後の期待等）

良かったところ

・参加者が思っていること、感じていることを形にしていただいた。
・参加者同士の交流ができた。参加者が何を求めているかわかった。参加しているという意識が高まった。
・今後の進め方に役立つ意見が聞けました。

今回の改善要望

・もう少し踏み込んだまとめができればよかったかと思います。

■終了後の感想（参加者）

・ファシリテーターの方々の笑顔やフレンドリーな感じが良かった。
・ファシリテーターの役目がわかった。

■具体的内容

□実施までのプロセス（企画・準備段階から実施までの流れ）

５月８日:ＭＦとＣＯが実施会場で総合環境センター・担当者と打ち合わせ。先方要望等の聴取を行う。
７月 16 日：５回シリーズの講義中、第４回の講義を傍聴。参加度等の状況から、ＷＳ向けの提案実施。
７月 27 日：ＭＦが総合環境センター・担当者と打ち合わせ。プログラムの基本案、事前課題を決定。
８月５日：ＭＦがアシスタント公募を実施。４名が応募。４名を全員を決定。

８月 11 日：ＭＦからプログラム詳細をアシスタントに伝達。メールで自己紹介等を相互実施。
８月 26 日：ＭＦとアシスタント、当日の早めに集合し、打ち合わせで内容確認。当日、ＷＳ実施。

□実施（支援）内容

元々の要請が「中央区総合環境講座のまとめ講座として実施し、受講した講座内容の振り返りとして受講者によるディスカッションのファシリテーション」ということであったが、「振り返った後に何を期待するのか」を依頼者側が十分に設定されていなかった。このため、ワークショップのゴールを「活発な意見を出すことができる」「今後に何らかの取り組みをしてみたいと感じる」という緩い設定で行うこととなった。

環境講座自体が「大気汚染の状況」から「江戸東京野菜」に至る幅広いもので、参加者の意識の拡散が想定されるものであった。このため、依頼者と相談をして、「講座全体の事前アンケートにより、関心が似通った方々が同じグループで受講を行う」という形式を確保した。各チームは「EARTH」「RIVER」等の種別グループとして設定され、参加者は５回目までの講座を選択的に受講されている様子であった。

内容	時間	主旨
オリエンテーション	5分	本日の内容や狙い
小ワーク	20分	アイスブレークとして、話し易い環境を作る
メインワーク説明＆ミニレクチャ	10分	何をしていくのか？を解説。話し合いの大切さ・ルールを示す
グループワーク（種別グループ）	30分	グループで、体験をまとめる／共通なこと、自分独自なこと
グループワーク（種別グループ）	20分	「今後、何をしてみたい。チャレンジしたい」について、「自分で」「このメンバーと」「センターに期待」と分けて表記
グループ単位で発表	20分	ポイント説明型で発表。メモを用意して、自分自身にとっての取組みを書いてもらう
振り返り	10分	本日の内容再確認、自分化を進める

「講座とりまとめのワークショップ」を企画するにあたり、一番課題となったのは参加者の人数である。３回目の講義くらいまでは 30 名の定員のうち、６割程度が参加をしていたが 4 回目以降は参加者が減少して半数程度になっており、6 回目の当日に何人の参加が見込まれるのか、わかり難い状況であった。このため、ワークショップの基本プログラムを右図のような形とし、５つの種別グループも当日の参加者状況で合併をしていくことを見込んだ。1 グループ 4 名程度で３、４グループが構成出来ることを前提として、時間設計などを行った。ここでは、参加者に高齢の方が比較的多いことを考え、各テーブルにアシスタントがついて話し合いを活性化することを織り込み、ＦＡＪ内で希望者を募ることとした。

実際の当日参加者数は、予想をしていた「10 人から 15 人程度」にも満たず、総計で 7 名であった。そのため、アイスブレークも全員で行い、ワークグループも 2 グループで運営することとした。

アシスタントは、当初は 1 テーブルに 1 名と予定していたが、この状況変化に柔軟に対応し、各テーブルを２名ずつで担当するという形で、非常に恵まれた状況になった。

主ワークは、「講座で得たことの再確認」と「今後に取り組みたいことのアイデア出し」の２ステップとしたが、５回の講座が終了してから約１カ月が経過していることもあり、大いに苦戦をした。参加者が、講座の内容を忘れてしまっている状況があり、さらには各人が自らの活動領域を持っていることもあるため、講座と関連性のない発言が多くを占めるような状況となった。
アシスタントの努力も影響して、参加者は存分に意見発露を行うことができ、一定の満足感を得て頂くことはできたが、「講座に焦点を絞った意見交換」という形にはならず、「今後の取組み」などの部分での”化学変化”的なものも生み出すことはできなかった。

■担当チーム振り返り（現場におけるファシリテーションの活用支援に参加して良かったこと・成果／改善点や気付き等）

（向山　聡：ＭＦ）自らの業務でもある環境問題研究に沿ったテーマであることからＭＦ担当を希望しました。環境問題に踏み込んだ課題認識・議論が起きた時に、多少とも支援ができるという理由からの希望であったのですが、そのような内容になることはありませんでした。
「一家言あるのだけど、講座で発言をする機会がなかったので、発言をしたい」という参加者の方々の意見発露の場になった形でした。
アシスタントの方々には事前に「テーブルファシの進め方」などを提供していたのですが、参加者の発言に振り回されてしまった部分もあり、十分にガイドをできなかったという反省点が残ります。振り返りでもプログラム自体の問題は少なく、「参加者の意見・考えの事前把握」や「テーマからの脱線状態の補正方法」などが見直し部分、取り組み部分として焦点が当たりました。
依頼者との約束である「意見の活性化」部分は十分に実現でき、「ＦＡＪ会員の参加度を高める」という部分でも貢献はできたと思いますが、ワークショップ全体の効果性をあげるには、講座全体の企画支援や参加者が欠落しないようにしていく支援などをしていく必要を感じました。
（冨永 博之さん）シリーズもののセミナーの最終回だけの支援活動の場合、これまでのセミナーの状況やその場の雰囲気・環境がわからない（あるいは正しく伝わってきていない）ため、参加者の方々の立ち位置を把握できるまでに少し時間を要したと思います。セミナー後の反省会でも出ましたが、企画の段階から参画できるとよりよいセミナー（ファシリテーション）にできるのではと感じました。
個人的には、参加者の方々の話していることが本来のテーマから逸れ始めた際に、話を元に戻すタイミングとその言い方をもっとうまく実施できるようになりたいと思いました。
また、参加者の方々から出た意見や感想を、環境問題のテーマ別にグループ化するのは易しいのですが、そこに書かれている思い、行動、アイデアといった別の切り口で仕分けることは短時間では難しく、もっと修行が必要だと感じました。

（馬場貴子さん）難しかったのは、シニア世代の勢いあるおしゃべりをテーマや作業に沿わせていくことでした。活動経験が豊富で明瞭な主張をお持ちのメンバー。他の発言にはあまり関心を示さず、言いたいことは集中して書き、誘導される感触に敏感な様子でした。終了後「あなたたち、どこに行ってもこんなやり方してるんでしょ」と言って来られた参加者がありました。
こちらから提示するテーマや作業、ルールについて、参加者の納得がいき、ご自身にとって意味のあるものとより受け取っていただけるように、言葉かけを学んでいきます。ファシリテートされていることを意識させないファシリテーションを目ざしたいと、改めて思いました。
また今回のように、主催者の目的が参加者のモチベーションを高め、自主活動を促すことにあるケースでは、ファシリタティブな要素をより早くから活用する意味をもっと社会に広めたい。そのためにも、アシスタントとしても少しでも質の高い仕事ができるよう、経験や学びを重ねていこうと思います。

（宮﨑　典子さん）中央区環境講座テーブルファシリテーターへの参加は、FAJ 会員になって始めて参加した活動でした。事前に資料を送付していただき、当日も丁寧なオリエンをして頂いたため、スムーズに内容を理解でき、参加することができました。
当日開始時間になるまで、参加人数や参加者属性がわからないと言う状況でしたが、ファシリテーターの方を中心に、アシスタントをしたテーブルファシリテーターも自分達で色々考えながら、臨機応変に

動けたのではないかと思います。今回の私の参加目的は､｢自分の仕事はファシリテーターに似ている部分が多いのですが、違いが何なのかを明確にしたい」ということでした。そのために先輩が実際にファシリテーションをされている姿を拝見し、又、参加者の方の反応を見て勉強させて頂きたいと思っていました。自分の仕事との違いを発見出来たことと共に、参加者に自発的に参加させることの難しさ、強制的にならずに時間内に作業を終わらせることの難しさが今回の発見でした。

（新矢　理恵さん）分類方法について： 普段、会社の中では発散の後、意見のキーワードを拾って分類してしまうことが多いのですが、今回、一緒にテーブルファシリテーターを担当した方が、「もっと知りたいこと」「みんなに教えたいこと」など違った軸で分類することを提案されました。次のワークへの橋渡しになるような軸を提案されたのは、「なるほど」と刺激になりました。
発散について：普段、会社での話し合いは、自分自身がよくわかっている領域における話し合いなので、発散の際に、さらに深堀するための効果的な質問ができるのですが、環境問題について知識が浅いため、効果的な質問ができず、通り一遍の話に終始してしまいました。やはり、話し合いのテーマについてある程度の情報が必要だと感じました。例えば、これまでの５回の講義で使用した資料を見せてもらう、アンケート結果を見せてもらう、など、積極的に情報提供の依頼をすべきだったと感じました。」

以上

■事業の概要

□主催：親心を育む会
□事業名：親心を育む会役員会

□実施期間（企画・準備含む）：2015 年 7 月 15 日～9 月 7 日
□実施日・場所：2015 年 9 月 7 日 14：00～16：30、第三なでしこ保育園（埼玉県熊谷市）
□参加者数：9 名
□担当チーム（ＦＡＪ会員）：米岡裕美（MF）、中島美暁（FG）
□ファシ活支援形態（ワークショップ、研修等）：会議

■事業の背景／目的／終了後に目指した姿

①背景：

・親心を育む会が 10 周年を迎えるにあたり、会の今後の方向性を定めたり、何らかの新しい取り組みを行いたいが、議論が進まない。

・参加者の思いや当事者意識、参加の度合い等にもばらつきがあり、会のあり方や方向性が見えにくくなっている。

②目的：

・脱線しがちな会議を第三者がファシリテートすることで話を前に進める。

・これまで進行役を務めていた参加者が十分に話し合いに参加できるようにする。

③終了後に目指した姿（具体的に）：

・会のあり方や方向性について役員間で思いを共有する。

・新しい取り組みをするかしないか、するなら何をどのようにするのかを決める。

■終了後の感想（主催者／参加者）（プログラムを活用して良かったこと・成果や改善点・今後の期待等）

【主催者】

今回ファシリテーターを会議に活用することで、下の参加者の感想にもあるように、当会初、と言って良いほど、実りのある話し合いとなったことに深く感謝している。さらに米岡 MF と中島 FG の、主催者と丁寧に打ち合わせを行った上での事前準備の細やかさに、頭が下がる思いであった。

成果としても、個人的には日ごろから会の進行役として、自分の意見を抑えていた部分があったのだが、メンバーに対して、活動への参加意思確認を含め、存分に思っていることを吐き出せたと思う。自分自身、今後の課題（会の仕事を一人で抱え込まない）も明確になり、その場で周知できたことも大きな成果であった。また、会としても、メンバー同士の認識（思いの強さというべきかもしれないが）の違いも浮き彫りになり、それをお互い認めあえたことも、大切な一歩だったと感じている。進行については、限られた時間の中で、どんどん吐き出される各自の思いにその場が翻弄されるのではと危惧する場面もあったが、そこで出し切ったことは結果的に良かったと思う。その場を忍耐強く待ち、次の段階につなげたファシリテーターの技量と胆力に敬意を表したい。最終的には予定時間をオーバーしたが、こちらの会ではいつものことなので、参加者の満足度には影響はなかったが、ファシリテーターの方に迷惑がかからなかったかと、少し心配になった。

今後の期待としては、ファシリテーションという技法を知ることで、会議の進め方など、メンバーが今回のことを反芻できれば良い方向にむかえるのではないだろうか。再来年の学会発表という目標に向けて舵を取ることにコンセンサスが得られたので、今後のメンバーの当事者意識と参加意欲に期待した

い。
　どうしても情緒的な方向に流れてしまいがちで、話を詰めることが難しい参加者を上手に導きながら、着地点まで併走してくれた二人のファシリテーターに感謝したい。ぜひ、今後共、会の活動等見守って頂ければ幸いに思う。

【参加者（会議終了後のチェックアウトで出た意見）】
・第三者が会議に入ったことで、客観的に議論を整理でき、話が前に進んだ。
・やることが決まってよかった
・すごい成果だ。いままでモンモンとしていたことがすっきりと一気に進んだ。会にとって歴史的な日になった。
・ファシリテーションを自分の職場で使えるとよいなと思った。
・ファシリテーターがいてくれて話が進んだ。当事者がファシリテーターを担えないことがわかった。

■具体的内容

□実施までのプロセス（企画・準備段階から実施までの流れ）

7 月 15 日　主催者との打ち合わせ、企画チーム打ち合わせ
7 月下旬　事前アンケートを参加者に送付（8 月 10 日締め切り）
9 月 3 日　企画チーム打ち合わせ、主催者に電話確認

□実施（支援）内容

　親心を育む会の役員会の会議のファシリテートを行った。会議の進行は以下のとおりである。

１．趣旨説明：MF、FG 自己紹介、ファシリテーターとは
２．チェックイン：「最近うれしかったこと」（1 分で）　※時間の意識を持つ
３．今日の目的、進め方：事前アンケートの共有を通して会に対する思いを共有し、それから 10 周年の企画について話す。
４．事前アンケートで出た意見の共有：
　①会の活動を行っていて、最も感動した体験、ここがすごく良いと思っていること
　②現在の会の活動で「これはいいな」「うまくいってるな」と感じていること
　③会の活動で「こうだったらいいのに」「もっとこうなったらいいのに」と思うこと
　④あなたご自身が、今後、会で「これをやりたい」「こうしたい」と思うこと
５．今後の方向性及び 10 周年の企画
６．チェックアウト：今の気持ち、今日の役員会を通して思ったこと、これからやってみようと思ったこと

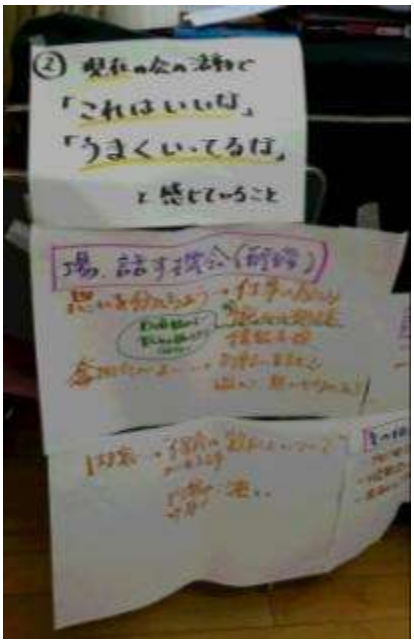
　４の①、②の段階では、アンケートで出た項目を１つずつ共有しながら、さらにその場で参加者から意見や思いをだしてもらった。そこで、感動した体験やよいと感じていることの反面、自分の意見が生かされなかったと感じたのでは、という意見や、そこで意見のぶつかり合いを避けてしまったといった思いが表明された。また、会のそもそもの柱はなにかということでも認識に差があることが判明するなど、会に対する各自の思いや姿勢がある程度明らかになり、課題も多く挙げられた。
　ここまでに時間をかけたため、４の③④は MF がさっと説明するにとどめ、すぐに５の今後の方向性の議論に移った。まず、会に対して何を大事にするのかを話し合った。ここでは、無理なく会が存続・継続することを重視するのか、新しい会員を増やして会を拡大することを重視するのか、新しいことに

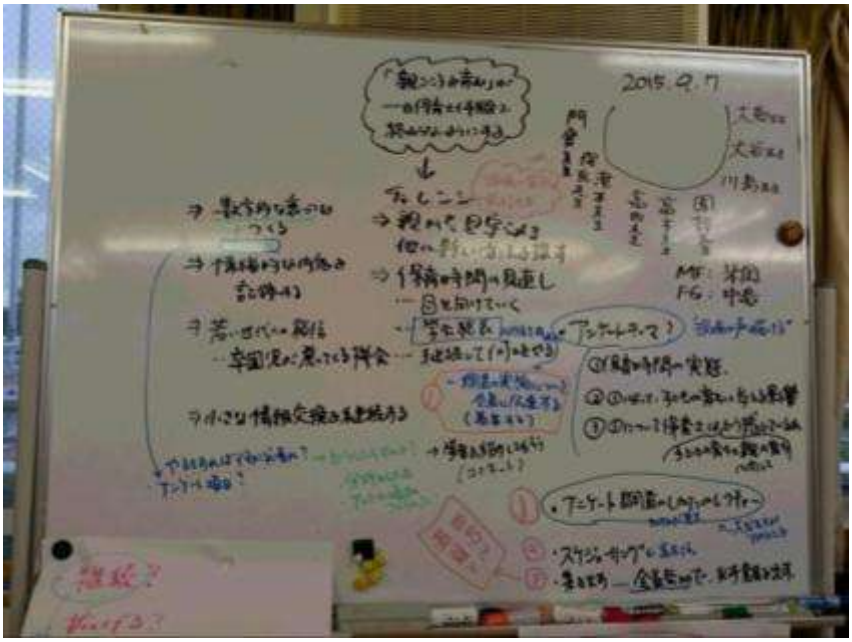
チャレンジすることを重視するのか、の 3 つを軸とした。

ここでも様々な意見が出されたが（ホワイトボード写真参照）、継続することは大事であること、長時間保育など現在の保育や親子関係に対する危機感があるということ、その危機感に対して何らかのアクションを行っていきたいということ、発信が重要であるということについての認識がある程度共有された。そこに、具体的なアクションとして、保育士に対してアンケート調査を行う、卒園児を迎える事業をするといったことが挙げられたが、アンケートについて、調査の専門家に連絡を取る、ココネットという研究支援サイトにアクセスするなど、急激に具体的な話が進んだ。さらに、発信については、再来年度の保育学会で報告することをめざすこととなった。

そこで、このアンケート調査について、最初の段階として、より具体的に何を行うのかを整理し、誰が、どれを行うのかを決定した。

最後に、チェックアウトとして、今の気持ち、今日の役員会を通して思ったこと、これからやってみようと思ったことを一言ずつ発言してもらった。





■担当チーム振り返り（現場におけるファシリテーションの活用支援に参加して良かったこと・成果／改善点や気付き等）

◇会議の進行について

・会議の前半のアンケートの共有の段階で、かなり様々な意見が出て、早く課題や企画について話したいという参加者の気持ちが高まっていたところ、なかなか次の段階に進まなかった。

この結果、予定時間を 30 分延長する必要が生じた。また、前半が冗長だと感じた参加者もいたようである。参加者の気持ちを感じ取って、前半を早めに切り上げて、次の段階に進むことができることがよかったと感じた。ただ、逆に、前半でしっかり思いを出したからこそ、後半具体的な行動の話がそれなりにスムーズに進んだ可能性もある。

・会議の後半、具体的なアクションを決める段階で、新しい挑戦として「長時間保育」をテーマとすること、アンケート調査を行うことを、MF が強引に決めていってしまった。

結果として、やることは決まり、これに対しての満足感は高かった。他方、全員の合意を確認しないままで進んでしまい、少し腰が引けている参加者を生んだ可能性がある。そして、腰が引けてしまった参加者が、今後のアクションを前向きに担うかという懸念が残る。

・主催者、FG、会の顧問などが、上記のような会議の進行上の懸念に留意し、それに対してそれぞれ対

応してくれた。

◇ファシリテーション活用支援プログラムに参加して
（米岡：MF）
・初対面の方を相手に、会議のファシリテーターを担うことに不安があったが、全員保育の関係者であるためか、とても暖かく受容性の高い団体で、とても助かった。
・打ち合わせやアンケートなど、事前準備の重要性を再認識した。特に主催者との打ち合わせや関係構築が大切である。
・チェックインは、MF が、参加者がどのような方かを知るという意味でも重要であると感じた。チェックアウトも、参加者の納得感や感じたことを確かなものにする（やらなければ、自分は良いと思ったけど他の人はどうかな・・・など不安が残る）のではないだろうか。
・ファシ活の担当の中島美暁さんがそのまま企画にも参加してくれて、大変心強かった。会議のファシリテーターについて、企画、実施のどちらの段階でもチームで対応することが効果的だった。
・私自身、事前の打ち合わせや当日の会議など、普段関わることのない場でのファシリテーションは初めてで、多くの気づきを得られた。このような機会を与えていただいた FAJ という団体、ファシ活委員のみなさん、そして親心を育む会の皆さんに大変感謝しています。

（中島：FG）
・担当者との事前の面会を通して、依頼者の意図や会の情況をしっかり把握して臨めたことがよかったと思う。相互信頼ある場となっていた。
・当初の「今後の計画をたてたい」というオーダーに対し会議時間の少ない中「会のあり方について思いを共有するのが先では？」という提案をし、目標を一歩手前において臨んでいたが、実際はオーダーどおり「今後の計画」に行き着いた。過去議論を重ねた内容であり、今日は決めたい、というメンバーの思いが強かった。前半で会の運営に対する思いをしっかり共有できていたことも、そこにぐっと進めた要因だったかと思う。
　ファシリテーターがいることで、メンバーが安心して忌憚無く話をすることができる…その実感をもてた場であった。これぞファシリテーションの力！最後のチェックアウトでのメンバーの話からその共有ができたことを確認できた。
・ＭＦの米岡さんは一貫して冷静に進行され、場に深い安心感があった。前半思いがけなく多様な意見がでてきたところでも無理に進めようとすることなく、ていねいに思いをひろっていた。それが冗長かと感じられた場もあったが、返って後半の議論をすすませる原動力となった。
・今回一気に進み、今後の会の進行への懸念が残る。今回確認できた思いを大事にしながら、会がさらに発展的に活動を継続されることを期待したい。
・私自身、この案件に参加させていただくことで、あらためてファシリテーションの力を感じさせてもらえた。もっともっと普及に努めていきたいという思いが強まった。ありがとうございました。

■事業の概要

□主催：公益財団法人 浜松文化振興財団 クリエート浜松
□事業名：ファシリテーター養成講座部企画講座　　「ファシリテーション講座　入門編」

□実施期間(企画･準備含む)：平成 27 年 10 月 23 日～2 月 20 日

□**実施日・場所：**平成 28 年 2 月 20 日(土)･クリエート浜松　会議室

□**参加者数：**39名（受講者34､ﾌｧｼﾘﾃｰﾀｰ1､見学者2､事務局2）

□プログラムを担当したＦＡＪ会員

ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ：梅谷秀治(東京支部)/ﾌｧｼﾘﾃｰﾀｰ：北川芳一(中部支部)
見学者：梅谷秀治･西野靖江(中部支部)

□ファシ活支援形態(●ワークショップ、●研修、○その他)：

市民活動をする中で、会議や話し合いがうまくできないと悩んでいた方に、ファシリテーションの必要性と有効性を理解することで、まちづくりファシリテーターとしての意識と知識及び技術を体験学習することにしました。

□ファシ活を活用しようと思ったきっかけや理由＜主催・依頼者＞

ファシリテーションに関心を持っていたり、必要性を感じているが学んだことのない市民を対象に、ファシリテーションの基礎基本について研修を実施し、ファシリテーションの基本スキルを身に着け、今後の研修につなげる。
対象者は幅広い年齢層の女性が多く見込まれるため、女性に教えるのが得意の方にお願いしたい。

■事業の背景/目的/終了後に目指した姿

①背景：今回はまず、ファシリテーションの知識とスキルを身につける為の入門編として位置づけました。

②目的：市民を対象にファシリテーションの基本についての研修を行い、ファシリテーションへの関心を高め、基本スキルを身につけて、今後の市民活動に資すること。

③終了後に目指した姿：①「ファシリテーションとは何？」を語ることができる ②ファシリテーション4つの技術の概要を知る ③明日から使えるファシリテーション技術をいくつか修得できている。

■終了後の感想(主催者/参加者)(プログラムを活用して良かったこと・成果や改善点・今後の期待)

☆主催者：クリエート浜松　事務局　國松秀行氏：

今回の講座を開催する際に、時間や謝礼等に関しいろいろ制約をつけさせていただいたにも関わらず、快く対応していただきました。　講師として北川さんにお願いした後の事前打合せでは、豊富な資料と的確なアドバイスのおかげで打合せに集まったメンバーも今回の講座の趣旨や意義を再認識することができ、当日までの役割確認や参加募集のチラシ等の準備も効率よく出来たと思います。　北川さんのご指導の賜物か募集開始してから５日で定員に達したため、それ以降のお申し込みはお断りするといううれしい結果となりました。　講座当日もファシリテーションについて非常にわかりやすく講義と実践を実施していただき、講座時間が短かったにも関わらず参加者全員が満足できる結果となり大変感謝しています。

☆参加者：アンケート回答者　28名より

Ⅰ.研修の満足度について　※5=大変満足、4=満足、3=どちらとも言えない、2=少し不満、1=まったく不満

5=9名　4=17名　3=2名　2･1=0名　大変満足･満足は 93%

Ⅱ.研修内容の理解度について

5=5名　4=19名　3=4名　2･1=0名　大変満足･満足は 86%

Ⅲ.研修内容のお役立ち度について

5=10名　4=15名　3=2名　2･1=0名　大変満足･満足は 93%

Ⅳ.研修内容の現場での活用度について

5=8名　4=16名　3=4名　2･1=0名　大変満足･満足は 86%

■具体的内容

□実施までのプロセス(企画･準備段階から実施までの流れ)

10 月 23 日･ファシ活の募集が全国MLにて発信された、申込締切(10 月 31 日)

11 月　5 日･広報の都合上、早目に研修について打合せたいとのことで、4時間のスケジュール案を作成した

12 月 18 日･今回の主催者である國松氏と事務局及び企画チームであるクリハマ楽校生5名に面会し、
今回の研修の内容説明会を行い、今後の役割とスケジュールを決めた(所要時間 90 分)

12 月末日･市民への告知方法として、「広報はままつ」「研修案内用チラシ」「クリエート浜松のHP」を使用した

1 月 16 日･見学者3名の募集を全国MLに発信し、2 名から申込があった

～　　･堀公俊氏に依頼していた著作権使用の許諾メールが届いた

2 月 20 日･研修実施(40 名の予定でしたが 6 名キャンセルがあり、34名にて実施した)

□実施(支援)内容

13:00　ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ（主催者あいさつ）

13:10　「本日の目的･目標･スケジュール」

ｱｲｽﾌﾞﾚｲｸ「チーム内自己紹介」--- 1 人 90 秒(ﾀｲﾑ計測)

アンケート「ファシリテーションの認知及び実践度」

講義『ファシリテーションとは』

14:00　演習【手探りファシリテーション】

講義『ファシリテーション４つの技術』

演習【ペアワーク：質問で掘り下げよう】

演習【個人演習：要約力を磨こう】

-17:00 演習【合意形成ファシリテーション】

■担当チームふりかえり(現場におけるファシ活に参加して良かったこと・成果/改善点や気付き等)

＜プログラムを担当した及び見学したＦＡＪ会員からのメッセージ＞

■北川芳一

・市の広報誌での募集でもあり、受付から５日間で定員となりファシリテーションへの関心の高さを実感しました。

・参加者の内訳は２０代から６０代で平均年齢４８歳であり、男女比も半々程度と多様でした。

・認知及び実践度調査では、「・ファシリテーションという言葉を初めて聞いた（２人）･言葉は知っていたが詳細は知らない（１６人）　・概要は知っているが実践していない（１１人）　・十分ではないが実践しているは（３人)」でした。

・研修プログラムは、市民を対象に開催するとのことで、基本的な知識・技術に加え、明日から現場で実践できる様に、私が実践している「まちづくりファシリテーター」の体験談を入れながら、市民活動の会議運営のハウツーを多めに入れた内容としました。
・演習時は、事前打合せ会に参加した企画者である「クリハマ楽校」のメンバーが各チームに入ってテーブルファシリテーター役を担当してくれたことで、短時間の割には充実した内容となりました。
・アンケート調査及び主な声から、目的としたこと目指した姿は達成できたと感じています。

■梅谷秀治：

まちづくり＆市民参加の場づくりのファシリテーション講座として、実践的な場だったと思いました。
喜多さんの日頃のまちづくりについての活動がそのままプログラムに活かされ、参加者の満足度が高いだけでなく、それぞれの活動の場でのチャレンジに繋がる気配も感じました。
わたし自身、学ぶことの多いプログラムでありました。有難うございました。

■西野靖江:

参加者の女性比率が、50%と高く、男性だけでなく女性も、ファシリテーションへの認知度が高いことが印象的でした。　メインファシリテーターの北川さんは、いつもにこやかに、時々冗談も交えながら、場を盛り上げていました。　日常的な場面の中から、ファシリテーションのコツがあることを伝えていて、ベテランの語り口を感じました。

（以上）

事業の概要

□主催： 東京都知的障害者育成会　葛飾・江戸川地区事業所

□事業名：「ファシリテーション研修：効果的な話し合いの進め方を知ろう」

□実施期間（企画・準備含む）：平成 27 年 11 月 29 日～平成 28 年 3 月 5 日（実施後のやりとり含め）

□実施日・場所：平成 28 年 2 月 27 日・江戸川区立希望の家（東京都江戸川区江戸川）

□参加者数：49 名

□担当チーム（ＦＡＪ会員）：メインファシリテーター：浅羽 雄介（東京支部）／コーディネーター(以下 CO)：中野功（東京支部）／見学者：飯塚 暁子（東京支部）　計 3 名

□ファシ活支援形態（ワークショップ、研修等）： ワークショップ型研修

□特記事項：本案件の特記事項として下記に記載する。

2015 年 6 月 29 日、東京都が、「障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律（障害者総合支援法)」（平成 17 年法律第 123 号。以下「法」という。）第 50 条第 1 項に基づき、当障害福祉サービス事業者に対して行政処分を行っていたことがファシ活認定時に判明（今回対象施設とは別施設)。その点において認定可否の議論があったものの、福祉業界に対してファシリテーションの普及を願うものとして、これら依頼者の置かれている状況を十分理解した上で取り組んでもらえるファシリテーターにお願いする方針にて、公募をかける判断とした。

■事業の背景／目的／終了後に目指した姿

①背景：（依頼者より）若手に関して施設ごとに職員の入れ変わりが多く、人が定着しない状況。

話合いでも若手から意見がでることがあまりなく、ベテランからのトップダウンもあり、どうしても受け身になってしまう。福祉の現場では「正解」はなく、人に言われたから・・ではなく、自分でよく考えて仕事をしてもらいたいと思っている。自分達で業務を作り上げる印象は現状薄いと感じており、それらを解決するために、関係者での話合いにおいて、出てこない意見をうまく引き出せるようにし、当事者意識を持ってやれるようにしたい。

②目的：限られた時間の中で、より効率的かつ有意義な話し合いが行えるよう、参加者の意見を引き出し、合意形成を図る基本的な知識を学び、明日からの業務につなげる。

③終了後に目指した姿（具体的に）：アウトカム　参加者が月曜日からの業務の中で一つでもいいのでファシリテーションのスキルを試してみたいと思っている。

■具体的内容

①実施までのプロセス（企画・準備段階から実施までの流れ）

□2015/11/29～認定時ファシ活委員内にて、認定作業時、行政処分による可否を議論した。一旦認定とし、詳細を確認するためヒアリング後の最終確定のステップで進めることとした。

□2015/12/17 19:15-20:30　江戸川区希望の家（依頼主）東京都知的障害者育成会　安藤様、染谷様と中野で初回ヒアリングし、現状確認および依頼者側の目標を設定した。その後委員内へフィードバック。12/23 のファシ活リアルミーティング時に認定決定。

□2015/12/27　ファシ活委員内にてメーリングリストでメインファシリテーター（以下 MF）公募

文面のレビュー後、全国 ML で MF 公募実施。
□2016/1/15　MF を浅羽雄介さん（以下敬称略）に決定。
□2016/2/4 19:00-20:30 MF 浅羽、CO 中野と依頼者（安藤様、染谷様、中村様）の打合せ。
□2016/2/6　見学者希望の飯塚暁子さん（以下敬称略）決定。
□2016/2/26　実施までの間、メールにて必要資料の準備等を行う。
□2016/2/27　研修実施。当日終了後、主催関係者にて振り返りを実施。

②当日実施内容

11:00～	現地集合、実施会場とは別の個室にて、当日の実施概要・注意事項等を関係者間（浅羽、中野、飯塚、依頼側：安藤様、染谷様、中村様）で共有した。
12:00～	昼食をしながら関係者間で雑談
13:00～15:10	・オリエンテーション 講師自己紹介、OARR、「ファシリテーション」ということばの定義共有など ・自己紹介 テーブル単位で 4 象限自己紹介。 ・バズセッション 「こんな会議にしたい」を全員で出し合い、自分たちの目指す会議を確認し合う。進め方は、①ペアで話す⇒②グループで話す⇒③A5 判用紙に一件一様で書き出す ・共有と構造化 貼りだした「こんな会議にしたい」を参加者たち自身が分類・整理するよう促し、その後、数点を読み上げて共有の時間をとる ・ファシリテーションの技術を考える 「あれがファシリテーション？」というものがあったら出してもらう 参加者から意見を出してもらう。少し考える時間をとってから挙手を拾い意見をホワイトボードに書きだす。ひとつひとつの意見に MF が書き出しながら説明する。 ・レクチャー 「ファシリテーションの技術」 ・ブレスト体験「ハサミの使い方」 ここまでの研修で体験したことをもとにブレストをやってみる。ブレストの 4 つのルールを提示し、アイデアを出す時の基本的なルールを知ってもらう。一番面白いと思うものをひとつあげてアイデアの数と面白いと思った意見をホワイトボードに書き出す。
15:10～	休憩　10 分
15:20～16:00	・模擬会議ワーク 「育成会をよりよくするために組織横断的に何かできることはあるか？」をテーマに模擬会議をする。テーブル単位でファシリテーターの役割と記録をとる

	役割を決め、話合いを始める。
16:00～16:20	・振り返り 同じ事業所同士で集まってもらい、それぞれのグループで本日全体を通しての振り返りと明日からやれることを話してもらう。
16:20～16:30	・ここまでの質疑応答と終了の挨拶
16:30～17:00	片付け、個別に質疑応答、および控室にて待機
17:00～17:30	関係者間（浅羽、中野、飯塚、依頼側：安藤様、染谷様、中村様）で振り返り実施。
17:40	完全撤収

■終了後の感想（主催者／参加者）（プログラムを活用して良かったこと・成果や改善点・今後の期待等）

・とにかく楽しかった。夢中になって話ができた。ひとつの紙にひとつの意見を書き出し貼り出す方法は、話を整理するにはいい。明日にでもやってみたい。

・本日模擬会議をやってみて、実践の壁の高さを感じた。特にファシリテーターは中立といいながら意見を言わずにはいられないケースがある。そのような場合にどう対応したらいいか難しいと感じた。（MF から１参加者としてロールを変えることを参加者へ伝えてから話すことはあると MF より説

明あり）

・（初めてなので仕方ないが）書くことができていない。決まったものしか書いていない。間違ったらまずいのではということで書くことを難しくさせている。

・こういった研修は、何かを書くという行為が＝発表という形になるため、今回の研修では発表しないということを事前に伝えておけばよかったのかもしれない。

・本日の研修でファシリテーションのヒントが見え隠れしていた。月曜から早速、板書の事前準備をしたら、会議もスムーズにいくだろうと感じた。

・（後日主催者からのメール文そのまま掲載）ファシリテーションについて学び、実践をさせていただいたことで、参加者の方がイメージを持つことができたように感じます。私自身も振り返りのときにもお話させていただきましたが、ホワイトボードの活用や書く意識など伝えていきたいと思います。また、研修依頼をさせていただくこともあると思いますので、そのときはご相談させてください。本当にありがとうございました。

■担当チーム振り返り（現場におけるファシ活に参加して良かったこと・成果／改善点や気付き等）

（MF の感想および気づき）

- 依頼者との事前の打ち合わせをしっかりやっておくことが重要であることを再認識した。
- 現場でサポートしてくれるアシスタントの存在が助かった。
- 冒頭のオリエンは場のエネルギーレベルがかなり低く感じてやや不安になった。しかし、次のグループ内自己紹介から笑顔も見られるようになり、一気に上がった。この落差は何だったのか？　研修に対する参加者の緊張感か、MF の開始前の振る舞いや在り方か…
- バズセッションの後、貼りだした意見を自分たちで分類整理する場面、全員が立ち上がり壁の近くに集まり、有志が進んで前に出て整理を始めてくれた。しかし後ろの方では、ただそこにいるだけの傍観者のように感じられる参加者もいた。全体人数が多かったので二つに分けても良かったのかもしれない（当初、二つに分ける予定だったが、参加者が減ったことで 1 箇所で行った）
- 休憩後のグループでの話し合いワークでは 1 グループだけ途中で「どう進めたら良いのかわからない」というグループが出た。付箋を使ったアイデア出しで進めていたが、アイデアがたくさん出なくて話し合いが停滞しているようだった。研修の中のそれまでの時間で知ったこと、体験した技術や進め方に逆に縛られてしまったのだろうか。
- 単発のファシリテーション研修の場で参加者の反応が良いといつも思うことだが、1 回だけで業務の中の話し合いや日常のコミュニケーションが劇的に変わるわけではないので、無理なく恒常的に関わっていく方法はないだろうか。今回の育成会に関してはサポートをしてくれた中野功さんと連携して折を見て連絡をしてみたい。

以上

■事業の概要

□主催： 公益社団法人　全国助産師教育協議会
□事業名：「教育力の Skill up、学生支援のため、学生のチーム力 up のためのファシリテーション力 up」

□実施期間（企画・準備含む）：2016 年 2 月 4 日から 2016 年 3 月 5 日
□実施日・場所：2016 年 3 月 5 日（土曜日）13：00～16：30　浜松市楽器博物館　研修交流センター
□参加者数：119 人
□担当チーム（ＦＡＪ会員）：鈴木まり子（メインファシリテータ）、村岡千種（アシスタント兼記録）
梅谷秀治（コーディネーター）

□ファシ活支援形態（ワークショップ、研修等）：第 41 回全国助産師教育協議会研修会でファシリテーション研修を実施

■事業の背景／目的／終了後に目指した姿

①背景：
学校教育・医療・看護の分野で、参加型の場づくりの動きが大きくなっている。助産師教育の領域でも学習者中心の教育への関心は高まっており、その場をどのようにファシリテーションするかという方法論を学ぶニーズが高まっていた。

②目的：
研修会全体のテーマである「人・技・場　つなげる力・つながる力」の中で、当ワークショップへの参加を通して助産学教育に携わる教員が、助産学生の自立性・自主性を育むファシリテーションスキルを学び、教育に活かすきっかけを見つけてもらう。

③終了後に目指した姿（具体的に）：
教員、助産師自らが講義と体験を通してファシリテーションを学ぶことで、それぞれの現場においてファシリテーションを活用してみようと思えている。

■終了後の感想（主催者／参加者）（プログラムを活用して良かったこと・成果や改善点・今後の期待等）

（主催者）

- 参加者が非常に積極的に話し合い、参加していた。それぞれの状況が共有され、そこから新たな発見があった参加者もいたようだ。

■具体的内容

□実施までのプロセス（企画・準備段階から実施までの流れ）

<1 回目>

日時：2016 年 1 月 13 日（水）13:00 頃～14:30
場所：静岡県立大学　小鹿キャンパス　看護学部棟　実習室４
参加者：太田尚子さん他 5 名
1. プログラム内容検討　2. 必要物品の確認　3. 会場準備　14日会場の下見
4. 実施までのタイムテーブル 5. 教員の役割　6. 次回の会議の確認

<2 回目>

日時：2016 年 2 月 4 日（木）10:40～12:10

場所：静岡県立大学　小鹿キャンパス　看護学部棟　４階　研究室４
参加者：太田尚子さん他５名
1. プログラム内容　2. メインファシリテーター、サブファシリテーター、アシスタントの人数
3. 会場設営　1つの会場（音楽工房ホール）で実施。当初、講義はホールで、グループワークは 4 階会議室を用いて分科会形式で行う予定だったが、移動時間やプログラムの統一性等を考慮し、ホール 1 会場のみで行うこととした。
・椅子人数分。えんたくんを使用するので机なし。
・劇場型（扇型） 通路をつくる。 4. グループ分け　5. 当日の事前打ち合わせ　6. 参加者人数の確認
<3 回目>
日時:3 月 4 日（土）18：30～20：00　直前打ち合わせ
場所：浜松駅前飲食店　　打ち合わせメンバー：鈴木、村岡
打ち合わせ内容：研修会の進め方、役割、約束事の確認
<4 回目>
日時：3 月 5 日（土）9:00～10:30　当日現地にて打ち合わせ、場作り

□実施（支援）内容

13：00 オープンニング：主催者の開会挨拶、講師・スタッフの自己紹介、オリエンテーション
13：15 アイスブレーク：ペアに分かれての知り合いタイム
13：30 講義：ファシリテーションとは、ファシリテーションのスキルと考え方
14：40 インストラクション：グループ作り、役割（ファシリテーター・グラフィッカー）決定
14：45 休憩
15：05 グループワーク：「特別講演での学びを現場に活かそう」
15：45 ポスターセッション（展覧会方式）
15：55 グループワーク振り返り
16：05 全体シェアと質疑応答
16：13 まとめ（自分の現場にどう活かすか）
16：23 ワークショップ終了・各種インフォメーション

■担当チーム振り返り
（現場におけるファシリテーションの活用支援に参加して良かったこと・成果／改善点や気付き等）

・今回の案件は、主催者側と密に打ち合わせができたことが、当日の進行に大いに役立ちました。特に、アウトカムを話し合い合意していたことで、午前中の基調講演と相互作用を起こすことができたと思います。当初は、学生たちに対してファシリテーションをどう活かすかという視点での研修依頼でしたが、まずは参加者のみなさんがファシリテーションの効果を実感してもらうプログラムを意識しました。いくつかインストラクションに対する反省もありますが、全体的には、ファシリテーションの必要性を実感し、現場で使おうと思っていただけたのではと思います。
　参加者が 120 名ほどいましたので、村岡さん、梅谷さんのサポートが場をよりよいものにしてくれました。（鈴木）
・約 120 名へのグループワークをどのようにデザインするのかということに興味がありましたが、アシスタントとして参加させていただき、様々な工夫が「やらされ感」なくファシリテーションを学ぶことができる構造になっていることを学びました。今回は教育に関わることの多い参加者対象だったことも

あり、この場の出来事と、彼女らが普段関わっている学習者に起きがちなこととの相似を示すことでの理解を促進するという考え方にとても感銘をうけました。ただ、グループワークの途中で、自分のノートにメモを取る参加者が多数出てしまい、模造紙へのグラフィックが共有されづらい場面がありました。事前に模造紙を活用して共有するということをインストラクションしておく必要があったかもしれないと感じました。アシスタントとしては、準備の段階でしっかりメインファシリテーターと打ち合わせをしてイメージを共有しておくことが、当日、メインファシリテーターとうまく役割分担しながら場づくりを行うことができるということを学びました。（村岡）

（当日の様子）

研修会が始まってのアイスブレークの様子。

時には参加者の中に入って双方向の対話を取り入れ、時には身振り手振りも交えながら、ファシリテーションの講義が進められていました。

“えんたくん”を囲んで、ぎゅっと凝縮された場でのグループワーク。今回は、午前中に行われた名瀬得集会病院小田切先生の講演「へき地・離島でも安心安全最高の参加医療を提供するために～結いの心を通じて～」をテーマにそれぞれの学び、想い、これからの現場に期待することが熱く語られていました。

展覧会形式でのポスターセッション。
和やかな雰囲気の中、参加者があちこちのグループを回り、周囲の話題やグラフィックの仕方などを興味深く眺めていました。

（以上）

■事業の概要

□主催： 福岡県民主医療機関連合会
□事業名：事務管理者研修（事務管理者に求められるファシリテーション能力）

□実施期間（企画・準備含む）：2016 年 4 月～5 月
□実施日・場所：2016 年 5 月 25 日(水)@ちどり薬局会議室
□参加者数：21 名
□担当チーム（ＦＡＪ会員）：平山　猛(メインファシリテーター)、梅谷　秀治(コーディネーター)
□ファシ活支援形態（ワークショップ、研修等）：ファシリテーション研修

■事業の背景／目的／終了後に目指した姿

①背景：

福岡県民主医療機関連合会に所属する医療機関の事務管理者のための 1 年間の研修プログラムの初日の研修という位置づけ。1 年間の研修を通して、次世代の事務管理者を養成することを目的としている。

以前に福岡県民主医療機関連合会の研修で FAJ 九州支部会員を講師としてファシリテーション研修をやったことがあり、参加者から好評であったため、事務管理者研修の初日にやりたいと考えていた。前講師に直接連絡を取ってみたが、都合が悪いようであったため、FAJ の HP よりファシリテーション活用支援プログラムに応募した。

②目的：

医療機関での事務管理者は職場での会議を企画・運営する機会が多い。会議では、医師・看護師などの多職種の人が集まり、それぞれ専門分野で資格をもった人たちが意見を交わすことが多いため、会議を切り盛りするのに苦労している。

今回の「事務管理者に求められるファシリテーション能力」の研修では、会議を円滑に進めるためのファシリテーションの概要を学び、職場に戻ってからすぐにでも使える基礎的なスキルを習得することを目的とした。

③終了後に目指した姿（具体的に）：

一通りのファシリテーションの基礎スキルを学んだ上で、特に議論を可視化すること、ファシリテーション・グラフィックの重要性を理解し、これは使える。明日から職場での会議にホワイトボードを持ち込んで、議論を描きだそうと思っていただく。そして実際に職場でやってもらえることをゴールとした。

■終了後の感想（主催者／参加者）（プログラムを活用して良かったこと・成果や改善点・今後の期待等）

参加者からは、議論をホワイトボードに描きだすことで話が活性化する等の感想が多かった。一方でファシリテーターとして議論を描きだすことは難しかったという意見もあった。主催者によれば、研修の 2 日目では、早速グループでの議論の中でホワイトボードを活用していたということであった。

■具体的内容

□実施までのプロセス（企画・準備段階から実施までの流れ）

- 4/11（月）：担当者訪問・ヒアリング
  研修の担当者を訪問して、今回の依頼の経緯や研修の目的等についてヒアリング。ヒアリングの内容を整理して、連休明けまでに企画書（提案書）を提出することを約束。当初依頼時から日程の変更が発生したため、日程調整を行う。
- 5/6（金）：企画書（提案書）提出
  研修の企画・提案書を作成して担当者に提出。内容について担当者と合意が取れたため、詳細プログラム作成を開始し、プログラムが出来次第、送付することを約束。
- 5/11（水）：詳細プログラム提出
  研修の詳細プログラムを作成して担当者に提出。グループ編成や必要な備品等について調整を開始。
- 5/25（水）：実施

□実施（支援）内容

13:00～13:30　オリエンテーション
　　－研修の目的・ゴール・ルール
　　－アイスブレイク（グループ内自己紹介）
13:30～14:00　ファシリテーション概要
　　－ファシリテーションとは
14:00～15:00　ファシリテーション演習①
　　－傾聴＆論理把握ワーク
15:00～16:00　ファシリテーション演習②
　　－ファシリテーション・グラフィック演習
16:00～16:45　総合演習
　　ファシリテーターを交代しながら、グループ内で議論
　　テーマ「若手の育て方、ほめて育てるか、厳しく育てるか」
　　30 分間でグループで結論まで導き出し、グループごとに発表
16:45～17:00　クロージング
　　－全体ふりかえり
　　－質疑応答

■担当チーム振り返り（現場におけるファシリテーションの活用支援に参加して良かったこと・成果／改善点や気付き等）

通常は医療機関に勤務されている事務管理者の中でのファシリテーションの認知度は思った以上に低く、21 名の参加者の中でファシリテーションについて知っている方は 3-4 名であった。FAJ の九州支部での活動も 12 年になるが、まだまだこの程度かと愕然とした。医療分野は多職種連携が求められ、職場の会議を回している事務管理者の方々が日々困っていることに対して直ぐに役立つスキルであるため、我々としてももっと裾野を広げていく活動が必要であることを再認識させられた。

研修終了後に、今回の研修に参加された北九州市の病院の事務管理者（教育担当）から、北九州でファシリテーションを勉強している人のコミュニティがないかという問い合わせがあり、北九州で活動をされている FAJ 会員の方につなぎ、是非参加してもらえるようにお誘いした。

ファシリテーション活用支援プログラムがあったからこそ生まれた今回の御縁に感謝して、さらにファシリテーションを学ぶ仲間を増やしていきたいなと思っている。

以上